

第2部 「日本研究」支援のネットワーク

日本語教育プログラムからの情報発信

- そのあり方と実現化に向けた問題点 -

畑佐 一味

(畑佐氏の公開講演「日本語教育プログラムからの情報発信 - そのあり方と実現化に向けた問題点 - 」と趣旨が同じなので、ここでは割愛しました。208ページ参照。)

国文学研究資料館の情報サービス

中村 康夫

午前中に様々な問題点をお聞きしておりまして、国文学研究資料館としてしなければならないことはいっぱいあると感じました。そこで、お手元の資料に入る前に、資料館で、今、どの程度それらの問題点についてお応えできるかをお話ししたいと思います。

国文学研究資料館は、全国の大学図書館、寺社、あるいは文庫など、貴重な古典籍をお持ちの所において、それらをマイクロフィルムに撮影し、保管し、蓄積していくということをやっております。それも、ただ保管して貯めるというのではなく、目録を作り、研究のためにコピーが必要な研究者などに提供していくという仕事もやっております。

国文学研究資料館は、年々傷みが甚だしくなっていくたり、散逸して行方不明になっていく古典籍を、何とかして残さなければならないという使命があり、そのためにマイクロフィルムに撮影して保存するというをやっているのですが、それらは、国家の文化レベルを支える上で重要な意味を持っており、研究文献としても貴重なものでありますので、できるだけ有用に活かされるべく、整理の終わったものは目録に登録し、所蔵者の意向に沿った範囲という限定付きではありますが、コピーサービスをしていこうとしているのです。

午前中に、海外には文献・資料が少ないというお話がありましたが、こういう貴重な資料が利用可能な状態にあるということをお知りいただき、実際の有効な利用を検討していただきたいと思います。

しかし、その多くは、法人あるいは個人のものであり、所蔵者は自分の大事な持ち物と考えておられますから、所蔵者が許可している範囲内に制限されます。ですから、場合によっては、ご要望がありませんと改めて所蔵者とやりとりしていただく必要がでてきたりいたしますが、資料館は、そういうときの窓口にもなりますので、ご利用の際には、整理閲覧部の窓口には、是非、アクセスしていただきたいと思っています。

マイクロフィルムの利用は、来館していただくか、大学などの研究機関を通じてお申し込みいただく

のが通例ですが、個人でお申し込みいただいて実現する場合がありますので、整理閲覧部の情報サービス係にご相談ください。

それから、国文学研究資料館は、予算の総額としては非常に微弱なものですが、毎年少しずつ原本を購入するという事もやっております。所蔵本を少しでも充実させて大々的にサービスをしたいと思っております。資料館が所蔵の本ならば、館は資料公開を大事な仕事としてしていますから、皆様には利用のしやすい資料が増えることとなります。もっとも、摩耗・消耗を気にしなければならない大事なものは、貴重本に指定して、多少慎重な取り扱いをお願いすることもございますが、基本的には、館蔵本につきましては、多くの方にどんどん活用していただくべく、態勢を作っているとお考えください。

次に、もう一つ大事なお話がございました。それは、研究論文のタイトルが一覧になっていないという指摘です。

国文学研究資料館では、毎年『国文学年鑑』という研究情報を1冊にまとめた書籍を刊行しておりますが、そこに所載の研究論文の情報をデータベース化して、国文学論文目録データベースを構築し、年々更新しております。今日現在では、昭和16年から平成8年までの約30万件足らずのデータを、オンラインで検索していただけるようにしております。ですから、資料館に申請していただいてIDを取得していただくか、あるいは、機関としてIDを取得しているところがあれば、そのコンピュータ環境で利用できるわけです。

通常、人文科学研究の盛んな大学の図書館では、ほとんどのところですでにIDを持っておられますから、図書館で利用できるはずですが、しかし、東京都内でも、利用申請をなさらない大学がないわけはありません。ご存じないのかもしれませんが、利用料金が気になってできないのかもしれませんが、たいていの場合、利用金額は年間1万円にもならないのですが、もしも、自分の所属している大学が利用申請をしていない場合は、他大学、あるいは国会図書館、あるいは直接資料館までお出かけください。図書館で利用申請しておられない大学でも、先生が個人で利用申請しておられる場合もございます。その場合は、その先生の研究室にお邪魔して、利用させていただければいいわけです。せっかく便利にできているのですから、是非、多くの方にご利用いただきたいと思っております。

このデータベースは、コンピュータ技術の面では海外からも問題なく検索できるのですが、海外から利用できない別の理由があります。それは、利用料金の支払いが、日本国の会計法上の規定のために、海外からは振り込めないことに理由があります。支払えないから申し込めないし、使えないのです。これは法律を運用するところで、かなり弾力的な方法を取り入れないとうまくいきそうにありません。

この壁は、コピーサービスを受ける場合にも共通で、何とか利用を実現するためには、とりあえず、代わりに申し込んで支払ってくれる親しい日本の友達を作るのが一番です。

さて、お手元に資料を用意しました、新しい資料館の取り組みについてお話いたします。

資料館は、古典籍のマイクロフィルムを収集したり、原本を購入したりしているというお話を今までしてきましたが、それは、資料として原本の映像を見るというもので、常にそのレベルに戻って研究する人のためには大事な仕事をしているといえると思っております。

しかし、お気づきのように、今日のコンピュータの普及状況を認識するならば、もっと便利に利用できるようにならないものかと思われるのが自然だと思います。

資料館では、古典籍を丸ごとデータベース化し、本文も検索できるようにして、できるだけ使いやす

い形で皆様のお手元にお届けしたいと考えております。

その一つの取り組みとして、資料館のホームページ上に“電子資料館実験”というコーナーを設けまして、そこで実際に、目録型の連歌や演能のデータベースの他に、いくつかの作品本文データベースが検索できるようになっております。

それ以外にも、この4月からは、情報系の安永教授によって構築された岩波書店刊の旧版『日本古典文学大系』全100巻のデータベースが、試験公開されております。ダウンロードしてご利用いただくのが便利ですが、2年間の限定公開です。

また、さらに、この7月からは、原本テキストデータベースという取り組みが CD-ROM で市販される形で公開されます。今年は、二十一代集データベースと絵入源氏物語データベースですが、出版は岩波書店が行います。これは、先ほど申しました古典籍を丸ごとデータベース化したもので、本文が検索できて、その部分の原本がイメージでコンピュータ画面に直ちに開くというものですが、テキストは原本に書かれている全ての文字を、作品本文と傍記等の書き込みとに分けてデータに起こしており、さらに、本文の多様になっている表記を標準化して別にデータとして持たせたり、利用者が書き込んで使っていけるメモ領域も構造的に配して、全て本文と関連づけてありまして、どこからでも検索したり、結果を利用したりできるようにしたものです。

さらに、CD-ROM に搭載しております検索システムは開放型にしてありまして、利用者が自分で作ったデータベースをも登録して一緒に使っていけるようにしてあります。

CD-ROM の出版物は、今まで、相当に高価なものだと思っておられる方が多いと思いますが、この夏に刊行されます二つのデータベースは、いずれも12000円です。画像もテキストもプリントアウトできますし、教科書のようにも使えます。また、絵入源氏物語ですと、蒔絵師が手がけたものだけあってなかなか挿し絵が見事です。その挿し絵を最初から見ながら、もう一度源氏物語を読み直してみるのもいいかもしれません。

データベースの作り方は `readme.html` として、CD-ROM 上に説明したものを搭載しております。自分の研究に必要なデータベースを自分で作って登録する。たとえば、源氏物語の古注釈を入れて、この絵入源氏物語のデータベースと統合的に使えるようにしておけば、本文の周りにいっぱい注釈情報が配されて、本当に必要なデータベースが実現していくというふうになります。そういうふうには、一人一人が自分のデータベースを育てて使っていくデータベース、参加型のデータベースという考え方も取り入れて、このデータベースは作っております。今後<吾妻鏡><栄花物語・大鏡・今鏡・水鏡・増鏡><古事記・出雲風土記抄>のデータベース化を予定しています。

国文学を研究するものも、ごく普通にコンピュータを使う時代にはすでになっておりますが、本ならばとうてい持ち運びできない情報量をノートパソコンに入れて、研究会会場に持っていくことなど、もうすでに実行している人はあります。これからは、自分の研究のこだわりもそこに詰め込んで、メモ書きが直ちにデータベースになる仕掛けを利用しながら、研究を進める時代が早くも来たということなのです。

どうぞご利用ください。

図1 <散文検索システム>

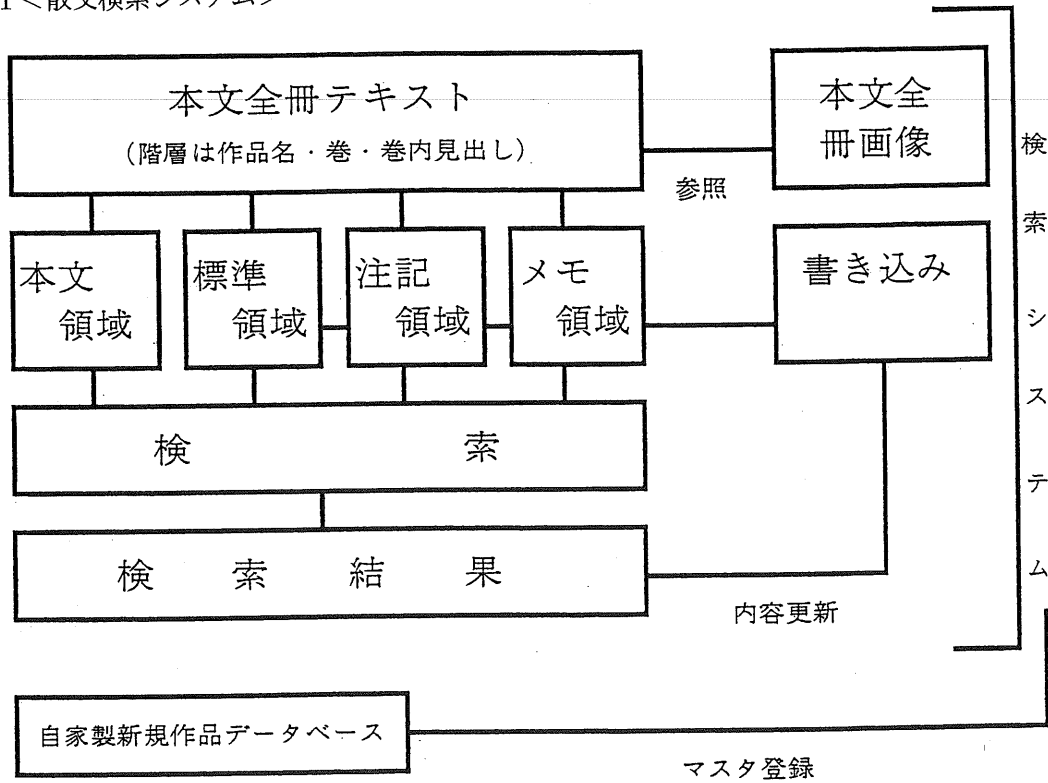


図2 <検索システムイメージ>

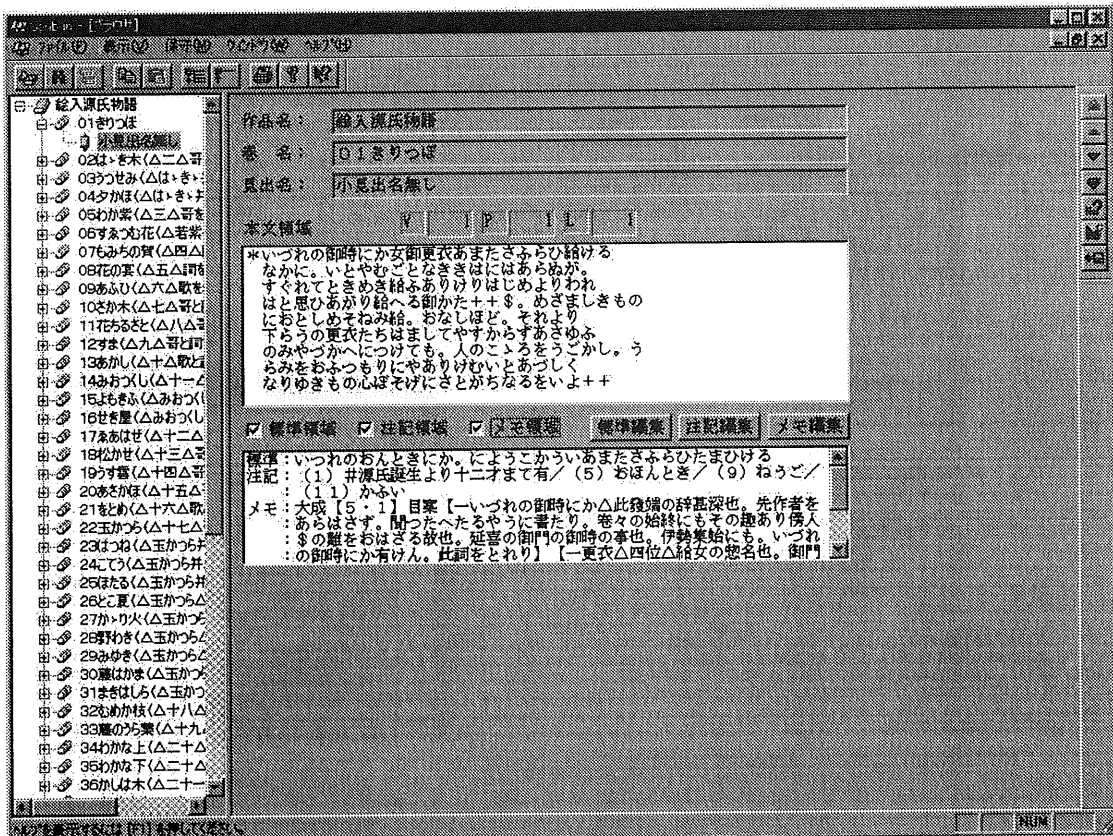


図3 <和歌検索システム>

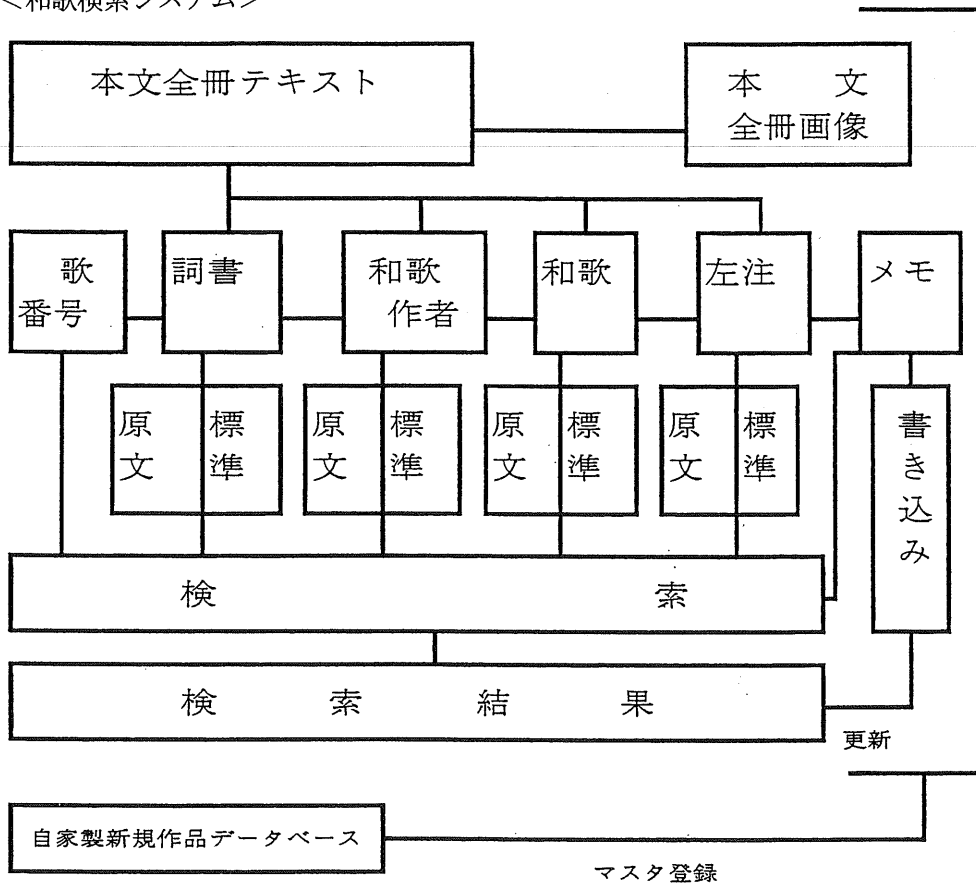


図4 <検索システムイメージ>

